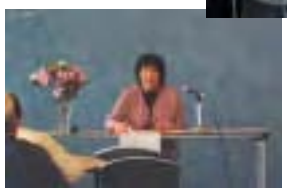
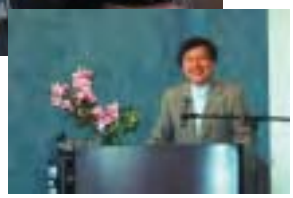
alaクルーズ

広報第７号
平成 16 年７月１日

通常総会開催

４月 25 日レセプションホールにおいて、平成 16 年度 ala クルーズ通常総会が定刻１時半より行われました。当日は委任状を含め 67 名の出席があり、桑谷館長、籠橋次長を来賓にお招きしました。ala クルーズが発足して２年半、その歩みは確実に市民に受け入れられています。また、県外からの視察も５回を数え、遠くは宮崎県から訪問があったことが報告されました。「ala クルーズが日本の NPO モデルとなりますように。」という桑谷館長の言葉が、実現しつつあるようです。15 年度事業報告、収支決算の報告がなされ、16 年度の事業計画、予算案などが承認されました。

総会終了後交流会に移りました。交流会では「クルーズ教育委員会」より、頭の体操が４問出題され、テーブルごとに回答の速さを競い合いました。どの問題も頭をかかえたくなるようなもので、桑谷館長のご祝辞にありました「たえず新しいことに挑戦する。」という言葉がふと頭をよぎりました。一番最後となったグループの皆さんは罰として「青汁」を飲まされ、少々苦い思いをしたようです。思いもよらない悪戦苦闘（クイズ）の後、頭が柔らかくなったのか童心にかえり、楽しそうな全員の姿が印象的でした。その後、食事や歓談をまじえながら、４時半に終了しました。

交流会で頭の体操

「わぁ、むつかしぃ～」
「わ、わからん！」
「うっ、…ぐやじぃ～」

戻 る

新役員紹介 創造・企画グループ アーラクルーズ

何事も複数年にわたり係わると、ややもするとマンネリ化に陥りがちとなるが、常に新鮮な気持ちを維持できるかが、自分の課題ではないかと思います。今年度はNPO法人化という目標もあり、更なる飛躍の年にしたいと思います。

澤野　親司

これからのalaクルーズの活動においては、NPO法人化にともない更に大きく展開していくことになっていくと考えられます。微力ではありますが、２年間務めさせていただきます。宜しくお願いします。

千藤　伸寿

引き続き役員をさせていただくことになりましたが、皆さんのご迷惑にならないように努力したいです。活動を通して会員の皆様に「クルーズの一員になってよかった。」と思っていただけるような事業と組織づくりに努めてまいります。

奥村　峰隆

設立から２年半、グループのメンバーに教えられ助けられいろいろな企画に携わってきました。今年度はNPO法人化の重要な年となります。今までの経験を、alaクルーズ全体、創造・企画グループの活動に活かしていきたいと思います。とにかく市民の方々に楽しんでもらいたい。alaクルーズの皆さんにも楽しんで活動をして欲しい。そのために、まず自分が一番楽しもうと思います。どうぞよろしくお願いします。

中村　幸雄

新役員紹介 支援グループ アーラクルーズ

寺松　美津利

１期とか４期とか分け隔てなく、仲良く、楽しく、サポートができるようにしていきたい。フロントスタッフだけでなく他に出来ることのプロジェクトを立ち上げ、alaに来館される人が、来てよかった。と思われるようにしていきたい。

参加して２年半、フロントスタッフとしてやってこられたのも皆さんのご協力があったからこそと感謝しています。今度は役員として、alaクルーズの皆さんが、より楽しく、より活動しやすくなるよう努めさせていただきます。

大坪　幸三

つきなみですが、皆さんのお邪魔にならない様、縁の下の力持ちでクルーズの役員として、努力します。よろしく！！

大石　実子

新役員紹介 監事 アーラクルーズ

寺沢　増巳

引き続き監事を仰せつかりました。alaクルーズが会則にしたがって積極的に活動するよう監視していきたいと思います。

監事の大役をおおせつかりました。懸命に努めたいと考えております、よろしくご指導くださいますようお願いいたします。

水井　浩司

新役員紹介 広報グループ アーラクルーズ

２期目の役員として、今までやれなかったことを実現できるよう最大限の努力をし、後継者のための基盤づくりをしていきます。また会員、会員外にもわかりやすい広報紙、ホームページ、記録など事業を実施したいと思います。

奥村　政司

奥田愼太郎

alaクルーズも結成以来２年半を経過し、誕生から成長へと歩みを進めてまいりました。特に今年度はNPO法人化という、新たなスタートが予定されております。その中で広報紙とホームページの充実に努力していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

島田　信行

16年度の役員をまた引き受けてしまった。今までも副会長として満足なことはできなかった。そのことを思うと心苦しく重荷に感じてしまう。また迷惑をかけてしまうが、できることからやらなければと感じている次第です。

戻　る

主役はお客様

フロントスタッフ第４期研修

４月 17 日～５月 15 日まで、４回にわたり、星乃もと子先生をお招きして「劇場マナー講座」（フロントスタッフ研修）が行われ、18 名の受講生が集まりました。ala 創造スタッフ室、演劇ロフト、主劇場、小劇場と場所を移動して、実技を交えながら学びました。「おもてなしの心」「具体的にどういうことをやるのか頭で理解しよう」「主劇場での動き」「小劇場での動き」等を非常にわかりやすく

キビキビと教えていただきました。先輩や職員のかたがたに見守られながら熱気あふれる講座となりました。４日間の研修ですべての仕事をおぼえることはとても大変でしたが、先生は「毎日 10 分でもいいですからね。」と、復習の大切さをアドバイスしてくださいました。フロントスタッフは劇場の中では舞台を支える一員であり、フロントスタッフの役を演じる役者のひとりです。そして、主役はお客様。ご来場いただきましたお客様に喜んでいただけるようにいつも考えながら行動するよう教えられました。受講生たちは多少の不安を抱えながらもデビューに向けてやる気に燃えているところです。

創造・企画グループギャラリー展示プロジェクト

土のうつわ展

シリーズ心にひびくものたちⅡ

５月１日～５日まで「土のうつわ展…日本と外国の紀元前の土器…」がギャラリーにて開催されました。１月の「福の神展」に続いて２回目のこのシリーズは、小スペースの利点を活かして、じっくりと『もの』と対話してもらおうというコンセプトで企画されています。今回の展示品は、縄文時代前期（約 5500 年前）～弥生時代の日本の土器と、イランや中国の古い土器です。一番古いものは、約 6500 年前のイランのものでした。日本の縄文後期・晩期の土器がこれほど多く集められた展示はあまり例がなく、他所の美術関係者の姿もチラホラと見受けられました。

期間中に３回行われた「解説」は、土器の解説を通して『もの』の見方を学ぶ場でもあり、「一生懸命見る人には『もの』が一生懸命教えてくれる」という解説者の言葉に、訪れた人はみな真剣な面持ちで頷いていました。その後、陳列ケースから土器を取り出して実際に手に取り、土器の重さや手触りを感じたり、上・横・下といろいろな方向から眺めたりと、ゆっくり時間をかけて 5000 年前の『もの』たちとの対話を楽しんでいました。

『もの』への慈しみとそれを創り出した人々への深い敬意が込められたこのシリーズは、次の企画を楽しみにしているファンも増えてきています。

戻 る

手作りレンガ

埋め込み作業完了！

去る３月 14 日に市民によって製作された手作りレンガが完成し、４月 14・15 日の両日、埋め込む作業が行われました。埋め込まれたのは玄関前の従来の手作りレンガに続く場所です。作業はまず埋め込まれているレンガの撤去作業から始まりました。今のレンガを再利用したいため、できるだけ壊さないように抜き取ります。厚みがあるレンガを、びっしりと敷き詰められた中から一つずつ抜き取る作業は手作業でおこなわれ、小雨降るなか難航していました。そして予定の247個を抜き取ったときには、もう日も西に傾いていました。翌日は雨もあがり、早朝から埋め込み作業を開始しました。しかし、レンガのサイズが個々に微妙に違い、抜き取った箇所に入らなかったり、隙間が開いたりしていました。そのため側面をサンダーで削ったり、隙間を砂で埋めたりの微調整作業を繰り返しながらはめ込んでいき、午後３時頃には工事が完了しました。前号の広報紙に公示日の予告をしてあったせいか、待ちかねた市民が早速訪れ、感慨深そうに自身の作品を見つめていました。また、翌日の中日新聞にも大きく掲載されたため、週末には大勢の市民が見学に訪れて、家族や友人たちと互いに探していました。ala にまた一つ見所が増えたかなと思います。

編集後記

もう７号目なんですね、うちのグループまとまりが良いんですよ。自分のポジションはきちっと守るし、それでいてちゃんと他もカバーできるし、こんなチームワークの良いチームはちょっとないんじゃないかな？こんな野球チームなら絶対「優勝」だね！！これからも磨きをかけてすばらしい広報紙を作っていこうと思う今日この頃です。わかりやすい広報目指してがんばりましょうみなさん。　（M．O）

ala クルーズ事務局　TEL/FAX：0574-61-3414

http://www.kpac.or.jp/alacrews/
Mail：alacrews@kpac.or.jp

戻 る